

## 人と自然が調和するまち いわきニュータウン

### 交通インフラの拠点都市「いわき」

いわき市は東北地方の最南端にあつて約1230km<sup>2</sup>という広大な面積と仙台市に次ぐ東北地方第2位の36万人の人口を有する都市です。自然と都市機能が調和する広域都市で首都圏から常磐自動車道で約2時間半、JR特急スーパーひたちで上野から約2時間、また新潟からは磐越自動車道で約3時間に到着します。加えて国際定期路線を有する福島空港や国際貿易港小名浜港にも近く、交通アクセスが大変すぐれています。

### 温暖で自然が美しいまち「いわき」

黒潮の影響で1年を通して過ごしやすのが特徴です。降雪量も少なく日照時間も東京や仙台より長く「サンシャインいわき」とも呼ばれています。太平洋に面した60kmの海岸線は白砂青松で夏は海水浴客で賑わい、市域の70%を占める山林や大小の河川は新緑紅葉が美しく、常磐沿線唯一の温泉地もあります。

### 東北第1位の工業出荷額の「いわき」

いわき市はかつて石炭の産出で活況を呈し、いまは新しい産業の構築をテーマとして地域振興を図っています。昭和39年(1965)の新産業都市の指定により、小名浜港の整備をはじめ、小名浜臨海工業団地、常磐鹿島工業団地、いわき好間中核工業団地などが次々と整備され、工業出荷額は1兆円を超えています。

### 21世紀へ「いわき」のまちづくり

新しい施設アクアマリンふくしまのオープン、常磐自動車道の延伸、環境と共生するいわき四倉中核工業団地の整備など、新しい世紀を迎えるためのさまざまな事業がすすめられています。

### 市のシンボル「いわきニュータウン」

昭和41年(1966)、平市、磐城市、常磐市など5市4町5村が合併した広域多核都市「いわき市」には、都市としての一体感、商業業務、教育文化の機能の集積が求められました。「いわきニュータウン」は恵まれた自然環境のもと、充実した都市機能を持つ市のシンボルゾーンとして、昭和50年度(1975)から地域振興整備公団(現都市再生機構)、福島県、いわき市、それぞれの役割分担のもとでスタートしました。平成15年(2003)1月末には3945世帯12731人のまちとなっています。

### 果たしている大きな役割

「いわきニュータウン」の整備によって市内進出企業就労者の住宅を提供し、人口増加に貢献するとともに市街地のスプロール化を抑制しています。また市内でははじめての四年制大学「いわき明星大学」が開学したことによって、若年層の流出を防ぎ若者文化の受発信が行われるようになりました。

さらに生活に密着する商業施設やビジネス拠点となるインテリジェントビルが立地、市民の憩いの場となっている県立いわき公園の立地もあって、広域多核都市いわき市の一体化に寄与しています。整備にあたっては、都市環境基盤整備推進モデル事業(エコシティ)や次世代都市整備事業など、環境に配慮した先導的事業として積極的に展開しています。



ラパークいわき



飯野二丁目の街並み

### いわきニュータウン 土地利用図



### いわきニュータウン概要

#### 目的

1. 増加する宅地需要に対応するための住宅地の開発
2. いわき市民に憩いの場を提供する県立いわき公園の建設
3. 文化、商業機能を中心とした都市核を形成し、広く市民の用に供するタウンセンターの建設整備
4. 高等教育機会の提供と地域振興に不可欠な人材を育成するための高等教育施設用地の整備

#### 事業概要

工期 / 昭和50年度からおおむね30ヶ年  
概算面積 / 530ha  
事業方法 / 一般宅地造成事業  
計画人口 / 25,000人  
計画戸数 / 6,400戸



平成13年6月撮影



いわきコルム



県立いわき公園



医者村

### いわき市 広域図



福島空港



常磐自動車道



三崎公園 いわきマリンタワー



アクアマリンふくしま



小名浜港